

JFA 第 24 回全日本ユース (U15)・第 9 回全日本女子ユース (U15)

フットサル大会審判員研修会レポート

報告者 北海道苫小牧地区審判員 熊谷茉那

日 時：平成 31 年 1 月 11 日 (金)～13 日 (日)

場 所：三重県伊勢市 サンアリーナ

参加者：〈インストラクター〉 8 名

・垣内 理伸氏 ・森 文敬氏 ・新谷 勝士氏 ・五十川 和也氏
・芝村 洋一氏 ・杉山 利久氏 ・延本 泰一氏 ・櫻田 雅裕氏

〈研修者〉 11 名

・戸舘 杏都氏 ・矢島 史子氏 ・松田 麻矢氏 ・三品 友美氏
・前田 敏康氏 ・名切 卓也氏 ・遠藤 美咲氏 ・藤田 悠輔氏
・小川 浩和氏 ・市川 亮一氏 ・熊谷 茉那

研修内容：競技規則テスト、講義、審判実技

平成 31 年 1 月 11 日 (金)

1. 競技規則テスト

2. 講義 (垣内 利伸氏)

(1) はじめに

- ・全国大会審判の目的
研修会→自分の意識を見直す機会
- ・審判を担当するにあたって→リスペクトを大切にする

- ・家族、仕事
- ・大会運営者、施設
- ・チーム運営者
- ・県、地域、日本協会
- ・選手、審判の仲間

※挨拶から始める!!! (会場入り、帰宅時)

※1. 大会派遣審判員として責任と自覚ある行動!

2. 控え室の使用は清潔に!

→使用する前より綺麗に

- ・選手が今までの成果を発揮できるゲームマネジメント→審判ができる思いやりの1つ

- 視野の違い（2種類の視野の違い）
 1. ハッキリ見える中心視野（直接視野）
 2. ぼんやり見える周辺視野（間接視野）

（2）審判員の協力とポジショニング

- 主審、第2審判が力を合わせてやる→パートナーが見えない事象、見えにくい事象をサポート
 - ※競技規則の理解と正しいポジショニングが重要
- 事象が見えないと笛を吹いてはいけない
 - 自分が見えるポジションに行く、仲間と協力する

キックオフ時のポジション

- タッチラインに対し、少し体を開き広い視野確保
- 最終DFとレフリーが見えるポジション

キックインのポジション

- 選手を規定の距離（5m）に離させたい時
 - 1歩離れて。ではなくて1m離れて。に言葉を変える
- 試合に集中していて、規定の距離（5m）離れてくれない時
 - 選手はボールを見ているから、自分が低くなって、相手の視野に入る
 - ※再開の場所にはより早く動く！選手を待たせることのないように！

（3）競技規則の理解と事象の部位

- ける→Kicking（足）
 - ファールを見極める
 - ボールへのチャレンジか
 - チャレンジの方法は認められるか
 - チャレンジのタイミング
 - チャレンジの方向
- つまづかせる→Tripping（足、膝、腰）
 - ファールを見極める
 - 相手がすでにあらかじめ位置しているコースに走り込み、自らつまづく状況を作り出していないか
- 飛びかかる→Jumping（全身、体ごと）
 - ファールを見極める
 - 飛ぶ方向、目線
 - 相手に対して、飛びながら突進しているか
- チャージする→Charging（肩、上半身）
 - ファールを見極める
 - ボールにプレーする目的以外で相手に接触していないか
- 打つ→Striking（肘、手、腕、拳）
 - ファールを見極める
 - 肘、手などを振っているか
 - 手に何か道具を持って投げているか

- ・肘、手の高さは不自然ではないか
- ・押す→Pushing（手、腕）
- ファールを見極める ・力の強さ
- ・タックルする→Tackling（足、下半身）、うける部位（膝から下）
- ファールを見極める ・ボールを突くために膝から下の足でチャレンジ→タックル
- ・タックルしながら滑っている→スライディングタックル
- ・コースに滑っている→スライディング
- ・押さえる→Holding（手、腕、体）、うける部位（体）
- ファールを見極める ・手、腕、体を用いて相手の進行や動きを止める
- ・押さえるとは、力をもって、相手の動きを制限すること
- ・ボールを意図的に手、または腕で扱う→Handling（手、腕）
- ファールを見極める ・手または腕がボールの方向に動く
- ・相手とボールの距離（予期していないボール）
- ・手または腕が「自然な位置」か「不自然な位置」か
- ・ボールが手または腕に当たるのを避けようとしているか

不用意なプレー

- ・相手にチャレンジするときの強さ、タイミング
- ・相手にチャレンジするときのアプローチ方法（方向、足の高さなど）
- ・ボールに触れられる可能性

Considerations（考慮点）

- ・相手に挑むとき、注意や配慮に欠けていないか

（４）事象映像研修

まとめ

1. 全てにリスペクトをすることを心がける
 2. 競技規則を正しく理解する
※競技規則は嘘をつかない
 3. より良い、判断判定のためのポジショニング
※動く目的と、修正、視野の確保
 4. 事象の部位と見極めるためのポジショニングと視野
- 講義してもらったポジショニングは、意思を持って確実に行う！！

平成31年1月12日(土)

1. 審判実技「JFA 第24回全日本ユース(U15)」

(1) マルバ茨城 fc (関東地域第1代表) 対 FC トゥリオール二 (東北地域代表)

9:1 (前半3:0/後半6:1)

主審:小川 浩和氏 第2審判:熊谷 茉那 第3審判:福本 信幸氏 TK:増田 圭佑氏

アセッサー:杉山 利久氏より

- ・マルバの監督が態度悪かったことに対して→面と向かって厳しく
※選手の温度が変わる
- ・ファールの見極め→ビデオを見て自己判定する
- ・ポジショニングの見直しが多い→捨てていい弱点を作る、探す
- ・前後の動きを取り入れる→幅を作り、事象が見やすいポジションをとる
※この動きをするためにステップワークをする!トレーニングする!
- ・目線を上げる→足ではなくて、胸上～顔を見る
- ・インプレー中の主審、第2審判の入れ替わりを取り入れる→1秒でもキープしたら動く、さぼらない
- ・キックインのジャッチを的確に→役員、選手からの信頼がなくなる
※自分の判定を強く持つ
※レフリーとのコミュニケーション、アイコンタクト
(パートナーを見る→手をあげる→ジャッチする→それでも分からなかったら周りの雰囲気を見る)
分からない=ポジショニングがおかしい、目線が悪い
- ・スクリーンとブロックの違い
スクリーン→相手をとめることでフリーになる味方を作りだすこと
ブロック→スクリーンをしたあとに動くこと

(2) アシストジュニアユース (北信濃地域第2代表) 対マルバ茨城 fc (関東地域第1代表)

5:2 (前半3:1/後半2:1)

主審:熊谷 茉那 第2審判:前田 敏康氏 第3審判:池田 浩之氏 TK:西田 純大氏

アセッサー:新谷 勝士氏より

- ・第2審判との目配せ良い
- ・ジャッチ良い→したいことが見えていた。ひるまないでジャッチしていた
- ・コートに体がしっかり向いてサイドステップを多く取り入れているのは良い
→バックステップなどを取り入れるなどして、スピードのめりはりをつける
- ・カウント(キックイン→キーパーがボール保持)めりはりをつける
- ・ゴールクリアランスの時、ハーフウェーラインにいてもいい(U-15の大会のため)

(3) ドリームFC (関西地域第1代表) 対フォンテ静岡 Jr ユース (東海地域第2代表)

4:0 (前半2:0/後半2:0)

主審:熊谷 茉那 第2審判:遠藤 美咲氏 第3審判:三浦 優子氏 TK:吉田 陽介氏

アセッサー:芝村 洋一氏より

- キックオフの時強く笛を吹く→タンニング「トゥー」、「今からさあ始めるぞ!」と気持ちを込めて
- 1つ1つのテンポを早める→事象と同時に笛が吹けるようにする
- 前半にハーフウェーラインの間接FK1つ見落としがあった
- 目線のフォーカスをのどあたりにする→足×（間接視野を広げるため）
- ファーストインスピレーション大事!→口まで笛がいったら吹く
- 最後の最後まで気を抜かないでやること!

2. 講義（櫻田 雅裕氏）

（1）競技規則

- 競技規則も経験も両方とも大事
- 試合中に使える競技規則を覚える（5, 12条など）
 - Aで言われたらBで返せるように!
 - 選手に自分は分かっていると思わせるように（信頼度）
 - 事象1つ1つにきちんと当てはめていく
- 知っていると理解しているの違い
 - 知っている→言葉だけ
 - 理解している→レベルの判断ができる（これは「不用意」。これは「無謀」など）
- 審判はどのようにしたいのか
 - フットサルの魅力を最大限に活かす→自分がやったら最高の試合になるように
 - 競技者の安全→安全を守るためにルールをよく知る
 - フットサル競技規則の施行→5条に書いてある

（2）準備について

- 審判をするときの準備→競技規則の確認
 - フィットネスの準備
 - 大会要項の確認
 - 荷物の準備

※引き算をしてトレーニングをする

- 競技規則の確認プラン（ex）

大会開催日から逆算してプログラムを組み立てる

- | |
|--|
| <ul style="list-style-type: none"> （火）競技規則1～9条 （水）競技規則10条～主審、第2審判のシグナル （木）競技規則ガイドライン1～6条 （金）競技規則ガイドライン7～12条 （土、日）審判活動 |
|--|

(月) 競技規則ガイドライン13~17条

メッセージ

1. 「吠える犬は噛まない」
→研修生みんなを見ていると思ったこと
「ピッ!!ピッ!!」「離れて!」
悪い人ではない
2. 「ずっと生き続けるつもりで働きなさい」
「明日死ぬと思って今日頑張りなさい」
→レフリーをいつでもできると思って続けていく
研修生の一生懸命やっている姿を見て思ったこと

平成31年1月13日(日)

1. 講義(五十川 和也氏)

楽しむことが1番の目標

- FIFA (Federation Internationale Football Association 国際サッカー連盟)
 - AFC (Asian Football Confederation アジアサッカー連盟) 五十川さんがいるところ
 - JAF (Japan Football Association 日本サッカー協会) 私がいるところ
- ※日本を強くしたいと思って努力する

3つの目を持つ

- グループ: 小川 浩和氏、名切 卓也氏、藤田 悠輔氏、増田 圭佑氏、三品 友美氏、熊谷 茉那
発表者: 藤田 悠輔氏 書記: 熊谷茉那
- グループ名: N大学魚大好き学部
- 鳥の目、虫の目、魚の目のメリット、デメリットを考える
- **鳥の目** メリット→目が横(視野が広い)、上から下に
 デメリット→視野が広くても、前が見にくい
- **虫の目** メリット→目が顔の左右(さまざまな角度、視野が広い)
 デメリット→目が動かない(後ろが見えないから体ごと動かないといけない)
- **魚の目** メリット→上の視野が広い
 デメリット→視野が狭い、視力が弱い

まとめ

- 魚の目は見るよりも読む→潮の流れを読む
※空気を読む→選手の温度を感じる
- 鳥の目→全体、虫の目→細部、魚の目→流れ

※これを活かして審判ができるように！

2. 審判実技「JFA 第 24 回全日本ユース (U15)・第 9 回全日本女子ユース (U15)」

(1) HKSC リンドーゼ霧島 (九州地域代表) 対シーガル広島レディース (中国地域代表)

3 : 4 (前半 1 : 2 / 後半 2 : 2)

主審：三品 友美氏 第二審判：熊谷 茉那 第3審判：増田 亜希氏 TK：増田 圭佑氏
アセッサー：新谷 勝士氏より

- ・カウントが遅いからきちんとする
- ・前半 21 分、後半 26 分時間かかりすぎ→早くさせる意識を
- ・しっかり止まってから慌てないでシグナルをだす
- ・シーガルのキーパーがペナルティーエリアから手が出そうになっていた
→注意を後半の途中ではなくて、ハーフタイムにしてもよかった
- ・サイドステップを多く取り入れているのはいいけどバックステップも入れるといい

(2) プリンカール FC (東海地域第 1 代表) 対エフスリー U-15 (北信濃地域第 3 代表)

4 : 1 (前半 0 : 1 / 後半 4 : 0)

主審：熊谷茉那 第2審判：湯浅 章江氏 第3審判：平野 裕也氏 TK：池田 幸弘氏
アセッサー：五十川 和也氏より

- ・シグナルははっきりとする
- ・タッチラインの内側は走らない→選手の邪魔になる
- ・もっと第2審判を見る→マイワールドに入らない
- ・ファールの見極めは一貫して押し通す→でも常に選手の温度を感じとること

(3) シーガル広島レディース (中国地域代表) 対ジョイ クオリアント (関西地域代表)

2 : 2 (前半 0 : 0 / 後半 2 : 2)

主審：熊谷 茉那 第2審判：三品 友美氏 第3審判：増田 亜希氏 TK：増田 圭佑氏
アセッサー：新谷 勝士氏より

- ・時間管理○
- ・タイマーが片方消えても、片方がついているなら状況に応じて進める
- ・1 試合目と比べてカウントとバックステップ改善できていた
→カウント (ストップウォッチで練習する。3, 9 秒であわせられるように)
- ・選手をしっかりと 5m 離させたあと動いてこないように
→「蹴るまでは動いちゃダメだからね」「これ以上よったら出すからね」「こないでね」
しっかりと伝える。それでもよってきたら警告を出す
- ・口まで笛にいったら吹くこと！

今後の課題

1. トライアンドエラー
2. パートナーとの連携（インプレー中の入れ替わり）
3. フットサルの魅力を最大限に活かすパフォーマンスをする

研修会に参加しての感想

全国大会という大きな舞台で吹かせてもらって、貴重な経験を積むことができました。これからの審判をしていく中で大きな自信になると思います。

各地域の審判の方と交流することができ、自分と比べることで、今後の課題を明白にすることができました。

女性1級審判の方と初めてお会いし、審判している姿がとても華麗で憧れの存在となりました。

自分自身を強く、そして選手から信頼される審判員になるために、今後競技規則を何回も読み、内容をしっかりと身につけていきたいと思いました。

たくさんのインストラクターの方にアドバイスをいただいて、研修会を通して、とても成長することができました。

今後とも何卒、ご指導の程宜しくお願いいたします。